

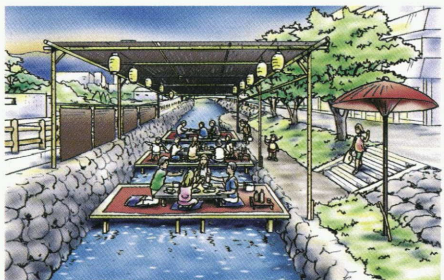
“知る機会”をつくると、 ミズベはスムーズに 動き出す。



笛吹市の「かわまちづくり計画」

■ 山梨県では市や地域をあげての
大規模なミズベリング・プロジェクトが
いくつか動いていると聞いています。

富士川水系が流れる山梨県では現在、さまざまなミズベリング・プロジェクトの取り組みが始まっています。きっかけは、2014年の6月。市名の由来となっている「笛吹川」を活用して地域活性化への取り組みをしたい、という話が笛吹市の市長さんから持ち上がりました。国土交通省でミズベリング・プロジェクトが立ち上がったのが、ちょうどその半年ほど前。笛吹市の話は、まさにミズベリング・プロジェクトぴったりなんじゃないかと思いました。それで、市長さんに「ミズベリング・プロジェクトという動きがありまして」ということを説明しに行ったんですね。そうしたら「よし、やろう!」という話になって、翌7月には笛吹市のミズベリング・プロジェクトチームが立ち上がりました。「〇〇ができたらいいなあ〜」と話し合ったアイデアを2枚の平面図に盛り込んで、2015年の1月に「笛吹市ミズベリング構想」として公表されました。笛吹川の護岸整備やカフェなど商業施設の誘致、川床の整備などさまざまな構想を具現化するべく、現在メニューごとに立ち上げた10チームが動いています。



構想のひとつ、「川床」イメージ

一方、笛吹市がこうした新たなミズベリングの取組を始める以前にも、県内ではミズベを活用した地域の整備事業が動いていました。富士川町の「かわまちづくり計画」です。これは、川辺に建つ富士川病院を中心とした近隣の河川敷を整備し、病院と連携したミズベの利用や陸上競技場の建設を計画している、いわば河川環境整備事業。そこで笛吹市の現状などを伝え、事業としてはカバーしきれない水辺に関するPR広報の側面のあるミズベリング・プロジェクトを一緒にやりませんか?と提案したんです。

現在では、笛吹市や富士川町のほかに、甲府市や南アルプス市、山梨市など、さまざまな市町が「ミズベで何かできないか?」と、「富士川水系ミズベリング・プロジェクト」とのコラボレーションに関心を持ってもらえるようになりました。

■ 富士川水系のミズベリング全体を
見渡しているのでしょうか?

「ミズベリングとコラボしませんか?」と、いろんなところへ飛び込んで声をかける言い出しっぺというところですね(笑)。共通のニーズを抱えていそうな異業種間をちょっとつなげて、コラボレーション話を持ち込んでいく。

たとえば富士川町の例では「ミズベリングメ

ディカル懇談会 in 富士川町」と題し、病院と行政をつなぐ機会をつくりました。介護士・医師・看護師のみなさんからの意見と、整備側である河川事務所など行政側からのアイデア。まったく異なる角度からの意見を検討し、水辺活用の新たな可能性を探りました。

民間企業とコラボ(国は予算0)した事例としては、全国から大学生400人が参加する「大学生観光まちづくりコンテスト」の山梨ステージに笛吹市ミズベリング構想の協力を得て、ミズベリングと連動したテーマ設定が実現しました。大学生にミズベリングを知ってもらうことで、「育てる」ことを視野に入れた持続可能な未来の創造に少しでも寄与できたいと思います。

■ コラボレーションという手法によって、
各組織にも新たな視点が生まれそうです。

大切なのは、異業種間で手を組むことによってお互いの得意分野をより活かし、ともに進んでいくことだと思います。先の事例をあげると、既存のコンテストに便乗することで効率のよいPRができましたし、コラボ側も新たな視点や考え方が入ることを歓迎してくれました。

地元大学の協力を得て富士川水系の新たな未来を創造していくために、ミズベリングに関する情報を関係者で共有し、よりよい産官学の連携のありかたや人材活用について調査・研究を行う「富士川水系ミズベリング研究会」を立ち上げました。今まで水辺に関する構想があった

けれどできなかった。この研究会に入って異業種とコラボする方法や知識を知ることができたことで新たな事業が生まれることになった。そんな新事業創造が、遠くない未来にここ富士川水系で実現しそうな気がしています。

国土交通省関東地方整備局の甲府河川国道事務所調査第一課にて課長を務める。山梨県に流れる富士川水系全体を見通し、各地域のミズベリング・コミュニティをサポート。地域を活性化させる人材育成を目的に富士川水系ミズベリング研究会を立ち上げる。共通ニーズを持つ異業種間のネットワークをつなげ、異業種間ならではの相互連携による新たなミズベ事業の可能性を追究している。

異業種マッチングプランナー 黒沼尚史



東京急行電鉄株式会社の電鉄マンにして、まちづくり開発の総合プロデューサー。沿線全体のマーケティングやブランディング、プロモーション、エリアマネジメントを担当されている。多摩川を知るには上流から下流まで知らないといけないと、多摩川の上流(羽村)～下流の羽田(天空橋)までの50kmを得意のランニングで走ったりするバイタリティミドル！

妄想リアリスト

東浦亮典

■ ミズベリング・プロジェクトとの出会いを教えてください。

2014年春の東京会議がきっかけです。発起人の坪田さんが中心になってすぐ2回目の会議「ニコタマ会議」が立ち上げられました。私は、オープンイノベーション・スペース「カタリストBA」の運営責任者をしていたので場の提供者という立場で「ミズベリング・プロジェクト」のことを聞き、「面白いんじゃないか」と。で、ついでに二子玉川の仕事をしているので、会議

の登壇者にも担ぎ出されたのがご縁のはじまりですね。

2015年、ようやく「二子玉川ライズ※1」がグランドオープンしましたけれど、このまちのブランディング担当になったのは2009年。再開発計画というのは手続きも含めて時間がかかるものなんです。都市計画的には20世紀の段階で、すでにこのエリアの骨格が決まっていたのですが、いまの社長が、「クリエイティブなまちにしよう！」と突然いうものですから、まち

に入り込みました。東急田園都市線と東急大井町線が交差する「二子玉川駅エリア」は、まさしく多摩川に隣接する世田谷区のまちで、水辺が真横にあって自然環境が豊かな側面と、渋谷からも10分ちよいという都市的な要素とのバランスがとれているまちなんです。そういうハイブリッドなまちだからこそ、ここでこそ働きたい、クリエイティブに働きたい、なんとかそんなイメージを世の中に広げていきたいと思いました。

■ 地域の人との関係づくりは、どうですか？

再開発をやっている部隊は動けないので、私たち別働隊がクリエイティブシティコンソーシアムという団体をつくって、二子玉川ライズに限らず、二子玉川の周辺を、クリエイティブなまちにしていくFACTづくりをしていこうとしたのです。2009～10年から、この地元に入り始めて、「ライズとは別にこのまち全体を盛り上げていきたいんだ」ということを地元の町会長さんとか商店街の人といろいろお話しをしてきました。

その中で「二子玉川の地域資源ってなんですか？」と地元のどのの方に聞いても「多摩川だよ！」と10人が10人仰る。でも「多摩川を活かしたまちづくりできていますか？」と聞くと、「それができていないんだよね」と返ってくるわけです。大きな催事としては年一回の多摩川の花火大会と春に兵庫島公園でやる「花みず木フェスティバル」が公式の行事ぐらいで、他には川を中心にした街づくりはできていない。それに、まちと川には間があって（二重堤防）、簡単にアクセスできないし、地元の小学生は「一人で川に行っちゃいけません」という教育もされているようで…。川が地域資源の宝といいながら実際の川とのコミュニケーション距離があることがわかったんですね。だけど、なにしろ多摩川の魅力って、一級河川でありながら、これだけの自然の河川数が残っている。また川の反対側には国分崖線という緑の崖線があって、都市的な環境なのに水と緑が近いとこなんです。

去年、ポートランドに行ってきたんですが、ウィラメット川の脇でコンパクトでミックスユース（複合利用）なまちづくりが出来ていて、「働く×遊ぶ×くらし」が同時に実現できることが、ほんとに二子玉川に近いな、と思いましたね。真似するつもりはありませんが、ああいうまちの要素＝クリエイティブマインドを掻き立てるまちができそうな予感を企業人としても個人としても活かしていきたいと思った時、「ミズベリング」という言葉がボンときて、あ、これだな！直感的に思いました。

■ 地域の人々の活動をリスペクトしながら？

いま「ニコタマ会議」は改称して「二子玉川未来会議」という名前になりましたけど、この会議に参加して何が良かったのかというと地元住民だけでなく、NPOとか市民団体とか、実にこの多摩川流域でいろんな想いで活動している人が、たくさんいることがわかったことですね。その皆さん一人ひとりが可視化されて、今までどんな活動をしているのかイマイチわからなかった間柄が会議で一同に介したことでお互いを知るきっかけになり、縄張り争いでなく、逆にオープンになって、一緒にリスペクトしながらやっていこう！と気持ちがひとつになったわけです。



内緒ですヨ！
「人と自転車専用の橋」を
多摩川に架けようと妄想しています。



東浦さんが思い描く未来予想図はどんな感じですか？

ライズ自体の開発は終わりましたが、このまちがもっとクリエイティブで水辺を活かしたまちになるには、まだまだやらないといけないことはあるので、その仕込みをいまやっているところです。それが全部ができるかは別として、私の妄想としては、もうちょっと都市部と河川が、安全に快適にスムーズにアクセスでき、ワクワクするような動線で川辺にできるアプローチをうまくつくりたい、と思っています。

で、ほんとに妄想ですが、僕はそこから舟運をやりたい。事実、多摩川は水深が浅いし、下流に堰があるので、船を浮かべるのは難しいのですが、ここには昔、川を渡る「二子の渡し」もあったところなので、ゆるい交通体系として舟運のようなもの復活したいな、なんて思っています。場合によっては水陸両用車かもしれない…。二子玉川発→武蔵小杉経由→羽田空港行きをつくりたい！なんてニヤニヤしています。

羽田へのアクセスも舟運で一気に近くなる！

あともう1つ。まちがこれだけ利用者数が増えてアクセスも頻繁になってくると、人専用の橋が必要になってくる。いまは二子橋しか

なく、あれは車の橋でシャビイーな歩道はあるけれど、快適に渡れるものではない。

こんど楽天さんが本社を移転してきて1万人の社員さんが日々通うとなると、ラッシュが大変なので自転車通勤を推奨されているんですね。その時に、このままだと危なっかしすぎて渡れない、と言われていて、人と自転車のためだけの、とてもデザイン化された専用橋を渡したいな、と思っているんですね。これ妄想2！ですね。

以前、ニコタマ会議で世界的な橋梁デザイナー「ローラン・ネイ氏」を呼んで「ニコタマ・ブリッジ会議※2」をしましたが、実はちよいと描いてもらったんです。

え、ほんとに描いてもらったんですか！？

もちろん橋をかけるのは公共工事なので、簡単ではないと思っていますが、防災上の見地からすると（3.11の時に多摩川を渡れなくて帰宅困難者が溜まったエリアでもある苦い経験があるので）人を安全に渡す意味で、もう一本、橋は必要だと思っているし、これから車社会ではなく、人間中心のまちづくりになっていくなかで、車のための橋より、人や自転車が楽しく渡れて、コミュニティが醸成されるようなデザイン化された橋が欲しいなと思っています。妄想

ですけどね。

でも誰かが言わないとできないし。隅田川でも「桜橋」というX字のデザイン化された橋がありますけど、あれって台東区と墨田区の友好の架け橋なんですよね。デザイン性もいいし、市民の憩いの場になっている。その手本をこちらでも実現したい。

そういうのは妄想何年？

構想何年でできることですか？

いや、すべては財政と地域住民の合意形成だと思うんですけど、車がバンバン走るものではなく、人のための橋なら、そんな反対する人はいないんじゃないかと思うんですね。そうすると対岸の住民同士が行き来できるわけですね。

いま地域の人や行政の人と「二子玉川エリアマネジメント」というエリアマネジメント団体の幹事もやっています。地元で公共空間を使って、どういうことで盛り上げていけるか、賑わいをつくれるのかを議論している最中ですが、そういうアイデアの中でもランニングステーションとかオープンカフェとかは川辺につくりたいね、とよく議題に挙がっています。僕もよく川べりを走りますので。

お手本にされている水辺はありますか？

先ほどのポートランドも1つですが、いちばん頑張っている「水都大阪」は水辺空間をうまく利用されているなと思います。行政も市民も、みんなでやっている関係づくりは素晴らしいと思います。

私たちの場合は、京浜河川事務所さんとの関係も、お互い知り合う前は、僕らがハードルの高い話をしているのかなと思っていたのですが、ミズベリング勉強会で二度ほどレクチャーしてもらったら、意外と水辺を市民発想で盛り上げるのはウェルカムなんですよ、と言っていた。手順さえ踏めば、もっとできることはあるんだな、と意識が変わってきました。

ここは高島屋さんと東急、それに楽天さんという大きな企業もあるので、市民と行政と企業が連携したら、なんか面白いコトを起こせるんじゃないかと期待しています。

お仕事柄、未来を見るのが仕事な訳じゃないですか？それって妄想力ですか？

そうですね(笑)。それに強く想いづつくと、いつの間にか、そうなっちゃうんですよ(笑)。クリエイティブなまち？働くまち？…何いっちゃってるの？と最初は失笑されますけど、信じていけば、そうなるんですよ。人の流れや意識を変えるのが、開発の醍醐味なので。トライ＆エラーをしながら、これからもやっていきたいですね。



多摩川の源流、山梨県の笠取山を訪ねてみた。



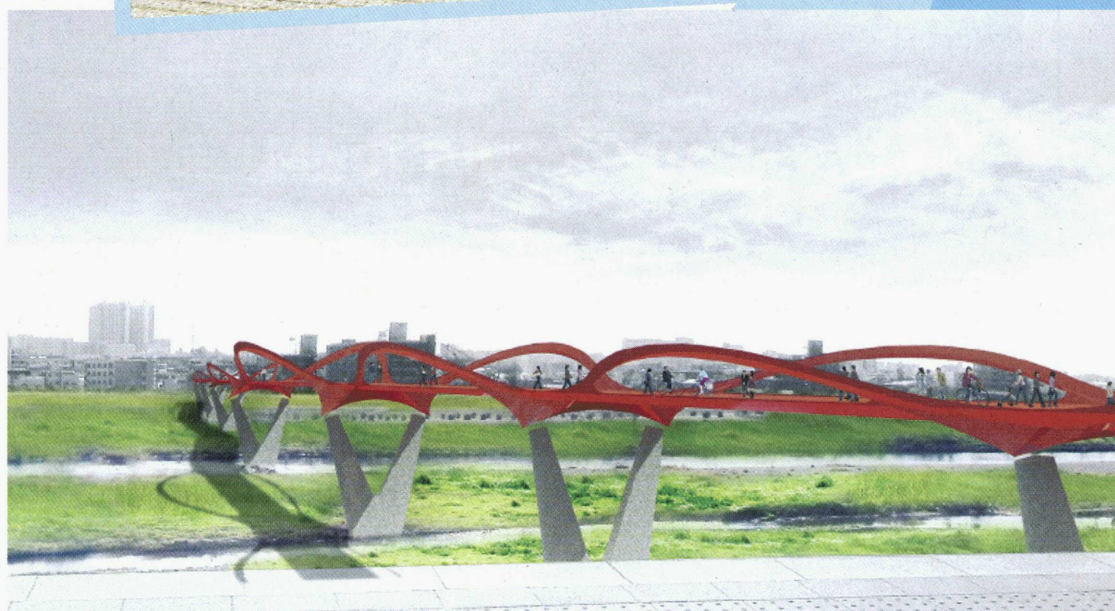
SUP体験会

※1 二子玉川ライズ
<http://www.rise.sc/whatsrise/>

※2 ブリッジ・デザイン会議 ローラン・ネイ氏
<http://mizbering.jp/archives/11374>

人と自転車専用の橋。
新しいコミュニティが生まれる橋を妄想中。

「ここに橋を作りたい！」



ミズベリングサイト以外にも 水辺の最新情報は、こちらからどうぞ！



The screenshot shows the homepage of realpublicestate.jp. It features a navigation menu on the left with categories like '物件検索' (Property Search), '学校' (Schools), '公園/道路' (Parks/Roads), '水辺' (Waterfront), '文化/スポーツ' (Culture/Sports), '役所/庁舎' (City Hall/Offices), and 'その他' (Others). The main content area displays several featured listings, including '「かわてらす」募集中！' (Kawaterasu Recruitment!), '水辺の夜、開放。' (Waterfront Night, Opened.), and '水辺の賑わいをもう一度' (Waterfront Buzzle Once Again). There are also sections for 'フリーワード検索' (Free Word Search) and '募集中物件を借り・買うまでの流れ' (Flow from Renting/Buying to Recruitment).

realpublicestate
公共R不動産



This section provides detailed information about the 'Kawaterasu' project. It includes a '詳細情報' (Detailed Information) section with a '概要' (Overview) and '詳細' (Details) tab. The '概要' tab shows the project's location in the Kawate area, its purpose as a waterfront revitalization project, and its status as a 'Public R Real Estate' project. The '詳細' tab provides more specific details about the project's goals, including creating a waterfront area for residents and visitors, and the involvement of local residents and businesses. It also mentions the project's timeline and the role of the 'Kawaterasu' committee.

公共空間の物件情報 「公共 R 不動産」

「公共 R 不動産」とは、使われなくなった、もしくは今後使われなくなる（使用停止）公共空間の情報を全国から集め、それを買いたい、借りたい、使いたい市民や企業とマッチングするためのウェブサイトです。

また、その再活用のアイデアや事業主体を募るシステムを持っているのが大きな特徴。行政の枠組みのなかだけでは生まれにくい発想や使い手を、市民や企業から引き出し、マッチングします。さらに、全国の魅力的でユニークな、公共空間再生の事例を紹介する役割も担います。

そこにはさまざまなノウハウや手法が存在し、それを全国で共有したいと考えています。そういう意味で公共 R 不動産は、公共空間再活用の総合的なアーカイブでもあります。

<http://www.realpublicestate.jp/>

みんなの経済新聞から 「みんなの水辺新聞」が登場！

<http://mizbenews.jp/>



The screenshot shows the Mizbering Japan website. The top navigation bar includes 'ホーム' (Home), 'ニュース' (News), '地図' (Map), and '写真' (Photos). The main content area features a large banner for 'みんなの水辺新聞' (Everyone's Waterfront News) with a headline about a food festival. Below the banner, there are several articles and images related to waterfront development and events. The website also includes a 'メンバーシップ' (Membership) section and a 'お問い合わせ' (Contact Us) section.

2016年3月3日（水辺の日） ついに、開催決定！ MIZBERING JAPAN

アナタは、水辺の最前線を、きっと知るに違いない！

詳しくは mizbering.jp/MJ まで。

